

# 青森県における学校給食を活用した郷土料理伝承の実態

佐々木雪乃<sup>1)</sup> \*、鹿内彩子<sup>1)</sup>

1) 青森県立保健大学大学院

Key Words ①郷土料理 ②学校給食 ③青森県

## I. はじめに

第3次食育推進基本計画<sup>1)</sup>の「五つの重点課題」の1つに「食文化の継承に向けた食育の推進」が掲げられているように、食文化の継承は食育において重要な項目である。近年、核家族化などを背景に、家庭で郷土料理を食べる機会は減少している。郷土料理伝承の場を家庭以外も担う必要があり、その中でも学校給食は小学校に通うほとんどの児童が6年間にわたり、実際に郷土料理を喫食することができる機会である。小学校時代で提供された郷土料理は、学校給食が提供されていない中学校の生徒でも記憶に強く残っているという報告<sup>2)</sup>からも、学校給食は印象に残りやすく、給食を活用することは郷土料理の食育に効果的であると考えた。学校給食に観点を当てた郷土料理伝承に関する研究は少なく、また青森県では学校給食と郷土料理の認知度や伝承に関する報告されていない。

## II. 目的

1. 学校給食や栄養教諭・学校栄養職員の郷土料理に関する食育の現状や課題を明らかにする。
2. 学校給食における郷土料理の喫食や食育を受けた経験が郷土料理伝に連関があるかを明らかにする。

## III. 研究方法

本研究は1. 青森県の栄養教諭・学校栄養職員における郷土料理に関するインタビュー調査、2. 大学生における小学生時代と現在の郷土料理の喫食状況に関するアンケート調査、3. 青森県の小学生とその保護者における学校給食や栄養教諭らからの郷土料理に関する食育が郷土料理の認知度や伝承意欲に与える影響を調べるアンケート調査の3つの調査から構成される修士研究の一部であり、前述の調査1、2が該当する。

1. 青森県の栄養教諭・学校栄養職員における郷土料理に関するインタビュー調査

【対象・サンプルサイズ】青森県内の小学校に給食を提供している栄養教諭・学校栄養職員81名に依頼文を送付し、同意の得られた13名を対象とした。

【調査方法】半構造化インタビュー

【調査期間】2020年10月～12月

2. 大学生における小学生時代と現在の郷土料理の喫食状況に関するアンケート調査

【対象・サンプルサイズ】青森県立保健大学 健康科学部 看護学科、理学療法学科、社会福祉学

---

\*連絡先：〒030-8505 青森市浜館間瀬58-1 E-mail: 2082002@ms.auhw.ac.jp

科、栄養学科 1～4年生 約 920名（回答率 40%を仮定）。

【調査方法】 Web アンケート

【調査期間】 2021年4月～5月

本来であれば、本年度中に Web アンケートを実施し、結果を取りまとめる計画であったが、調査票の作成、倫理審査承認の段階で年度末となってしまったため、次年度に調査を実施する予定である。

#### IV. 結果と考察

##### 1. 青森県内の栄養教諭・学校栄養職員を対象としたインタビュー調査

###### 1) 対象者の概要

本研究では、青森県を自然風土や歴史文化的背景をもとに、津軽、南部、下北の 3つの地域に分類した。対象者は、津軽から 7名、南部から 5名、下北から 1名の計 13名であり、全員青森県出身であった。対象者の勤務先の調理場形態は、全て給食センター方式であった。

###### 2) 結果および考察

現在、カテゴリー化を進めており、逐語録から得られた結果の傾向を報告する。まず、対象者にどのような料理を郷土料理として考えているかの郷土料理の定義を尋ねたところ、「伝統的な料理」、「その地域の食材を使用している」等のキーワードが挙げられた。給食において提供回数の多い郷土料理としては、どの地域でも「せんべい汁」が挙げられ、その理由としては、「季節性がない料理なので、出しやすい。」「児童たちからも人気である。」といった語りが得られ、学校給食として提供しやすい料理とその理由が把握できた。その他の郷土料理を選ぶ基準として、「大量調理に適している」料理であることや「給食用として使用できるように加工されたものが販売されている」料理も提供に影響する傾向があるが示唆された。給食の「大量調理」という特性上、調理方法や材料の入手などに制限があり、アレンジを行っており、「郷土料理」として提供していることも語られた。対象者が、郷土料理の伝承のために学校給食や栄養教諭・学校栄養職員だからこその強みとして考えていることとして、「家庭で郷土料理に触れる機会がなくても、（給食で）食べることができる。」「給食として実物の郷土料理を提供することができる。」という語りが得られた一方で、「家庭で食べたことのない郷土料理を給食で提供しても児童たちが食べない。」という語りも得られ、今後の給食における郷土料理伝承の課題点として検討する必要があることが明らかとなった。

なお、結果の更なる解析を進め、学校給食を活用した郷土料理伝承の課題を明らかにしたうえで、修士研究の調査「3. 青森県の小学生とその保護者における学校給食や栄養教諭らからの郷土料理に関する食育が郷土料理の認知度や伝承意欲に与える影響を調べるアンケート調査」へ繋げていく予定である。

#### VI. 文献

1. 農林水産省. 第3次食育推進基本計画, p14 (2015).
2. 近藤てるみ,丹治美保,加藤みゆき: 郷土料理に重点を置いた中学校技術・家庭科の授業開発, 香川大学教育実践総合研究,31, p 39-46, (2015)

#### VII. 発表 (誌上発表、学会発表)

2021年青森県保健医療福祉研究発表会で発表予定である。また、修士論文の一部として使用する。